

---

# 鏡の部屋の怪談

江美里

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鏡の部屋の怪談

### 【Nコード】

N4487H

### 【作者名】

江美里

### 【あらすじ】

怖い分からないですが、怖くなるように頑張ったつもりです。私自身怖いもの苦手なので怖いのが好きな方にとってはそこまで怖くないかもしれません。でも読んでくださるとうれしいです。

(前書き)

怖くなかったら本当にすみません。

このメールはチェーンメールではありません。あなたの周りに「鏡の部屋」という怪談があったらこの話を広め、探さないよう言うてください。こんな怪談です。

「鏡の部屋にはね、自分にはないものを持つ自分がいるんだよ。でね、その自分に会えたら、その自分に頼めたら、自分にはない性格になれるんだ。

鏡の部屋はね、鏡で囲まれているんだ。でも、ごくまれにしか自分の姿は映らないの。だから、鏡の部屋の自分に会える人、その人はとてもラッキーなんだよ。」  
とりあえず、これの続きを見てください。話はそれからです。

まゆき、鏡の部屋、だっけ？あなたの子供が流行ってるって言うていた怪談。

このメールを送ったのは私がこの部屋についてだれよりも知り過ぎているからなの。

お願い、この話は本当よ。信じて。

私は、友達のアズと鏡の部屋を探してた。そしてついに鏡の部屋のありがが分かったの。ここでは話さないけど、これも本当。

私はこの弱気な性格、彼女は正反対の強気な性格で悩んでた。それを治したくて必死だった。

そして鏡の部屋に通い続けて、私と彼女はもう一人の私に出会ったの。本当にびっくりしたわ。私がもう一人浮いているのよ？驚かな

い人いないわよ。

「あんた、私みたいに強気になりたいわけ？ふーん、弱そうだもんね。」

強気なのかわからないけど、こんな風になりたくて、必死で頼んだ。  
「まっ、いいわ。」

そう言われて、その瞬間、めまいがして倒れたの。そしたら教室に戻って、とりあえず帰った。次の日から私は驚くほど完ぺきに変わっていたわ。断りたいことはしっかり断れた。自分自身驚くほどの変わりよう。あずも、なりたいたいと言っていた優しい性格になっていたの。もう自分には怖いものはない、私は完璧とまで思ってた。でも、怖くなってきたの。今までの自分に戻りたいと何度も思うようになったの。何故かは分からないんだけど。いつの間にかいきなりそんな風に思ったりしたの。

それで、鏡の部屋に戻って、戻してって頼んだの。そうしたら、「嫌。あなたの体と、後三週間で入れ替わるのよ？あなたは私になって、ここに居続けることになるけど、私はこの場所から移動して、どこにでも行けるようになるの。大体二カ月で入れ替わるわ。」

だからね、と彼女は続ける。

「もうほんの数分くらいならここから動けるの。少しずつ入れ替わってきてるんだもの。」

「そんなの困る。戻しなさいよっ！」

「あなたさあ、分かんない？」

「は？」

「ここから動けないで、ずっとここにいる私の気持ちわかるって聞いてんの！！自分のことしか考えてないじゃない。それに困るって言われてもそうするのが私の役目だし。」

もう、仕方ないって思って、走って自分の体つかんで走って、鏡の部屋出て、とにかく走った。待て、とか聞こえたけど、待ってって言われて待ってちゃ馬鹿でしょう？って言い訳して走った。

だんだん、自分の強気な心が消えて、昔の自分に戻ってく。持っていた自分の体の重みが消えていくから、手の方を見てみると、どんどん消えて、私の中へ、手から入ってくる。

どのくらい追い離れたかと後ろを見れば、黒い粉のようなものが私から出て行つて、すぐ後ろに自分がいた。

どこに走っているのかもわからない。

「フーかまえた。あっ！」

瞬間意識が途切れて、起きたら先生がいた。先生の話によるといきなり私がぱたり、と倒れたらしい。

でも、たぶん先生が見つけてくれていなかったら私ヤバかったと思う。

だから関わっちゃダメ。そう伝えてね。

分かりましたか？ちなみにこの子、このメールを送った三週間後に死にました。密室で結核で死んでいたという事件です。皆さんも知っていますと思います。昨日まで健康状態だったのに、いきなり結核の症状で死んでしまった、というニュース、見た事ありませんか？出来るならこのメールをほかの人にも広めてください。広める勇気がなければいいんです。無理にとは言いません。でもせめてこのメールを読んだ人は、鏡の部屋のことを信じないでください。払う犠牲が大きすぎます。お願いします。

このメールの送信者は、このメールを送った二カ月後に最初の犠牲者と同じように亡くなりました。

(後書き)

読んでくださり本当にありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4487h/>

---

鏡の部屋の怪談

2010年10月12日03時06分発行